2010 年 6 月 21 日発行（NO．161）　　介護ウェーブ推進本部

STOP！介護崩壊 介護ウェーブ 2010 推進ニュース
－介護ウェーブの "Big Wave" をおこそう！－

新方針を具体化し、参院選で介護問題を国民的な争点に押し上げ、制度の抜本改善を必ず実現させよう

それぞれの事例から、民医連の理念に通じるものを感じました

地協介護事業交流集会で介護・福祉の理念を深める 100名が参加（北海道・東北地協）

今回で 3 回目となる、北海道・東北地協介護事業交流集会が 6 月 11 ～ 12 日に、福島県穴原温泉で開催されました。7 県連 25 法人から 100 名が参加し、年々内容も充実し、民医連の介護・福祉に自信と理解を深め、明日への活力となる場になりました。今回は「民医連の介護・福祉理念を深めること」と、「管理者の養成をどうすすめるか」をテーマに開かれました。参加者は全員が、『私の考える「民医連の介護・福祉」～事例・実践を通して考える』の事前レポートを提出し、実践交流を行うというものでした。

開会に先立ち、前期の北海道・東北地協運営委員で介護分野責任者の佐藤豊氏から、『民医連の介護・福祉の理念（案）「３つの視点」「５つの特徴」を深める場にしましょう』と挨拶がありました。基調講演は全日本民医連の小内浩理事より「情勢の特徴と民医連の介護事業所管理者の役割を考える－情勢と理念を自分の言葉で語れる管理者めざして－」というテーマで、①情勢の特徴、②新民医連綱領と民医連の介護・福祉の理念、③民医連の介護事業所と管理者の役割と幅広く、2 時間弱の講演では短いくらいでした。参加者からは、「ボリュームのある内容を分かりやすく講演していただいた」「民医連綱領にそった介護の管理者としての役割について、大変多く学ぶことができた」「管理者養成については、もっとじっくり話を聞きたかった」などの感想が多く出されていました。

指定報告では、①介護実践から理念の検討～第 9 回学術運動交流集会（北海道勤医協在宅）、②家庭での介護の現状と家族懇談会の取り組み（宮城厚生福祉会）、③寸劇による職員教育の報告（福島・わたり福祉会）の３事業所からの報告がありました。感想では「事例を聞いて、とても胸に響きました」「それぞれの事例から、民医連の理念に通じるものを感じました」「寸劇による職員教育がとても興味深い」などが出されています。1 日目の残りの時間と 2 日目半日は分散会が行われました。参加者一人ひとりがまとめた「事例・実践を通じて民医連らしさを感じたこと」を報告しながら討論を深めました。一つひとつの事例は内容が濃く、あっという間に時間が過ぎてしまった感じです。参加者からは、「民医連のあきらめない介護に確信がもてた」「介護ウェーブをとおして民医連の素晴らしさを実感できたという若い参加者の発言に後継者養成の大切さを見い出した」「民医連について、学習会だけではなかなか胸に響いてこなかったが、交流会で皆さんの取り組みを聞く中で民医連らしさということがわかりました」といった感想が出されていました。

今回の交流集会に提出された事前レポート（事例）そのものが大変貴重な資料集になりました。そしてなにより事例をまとめる中で、また他事業所の多くの仲間の実践を聞く中で、民医連を実感し、利用者に寄り添い困難な事例に立ち向かっている民医連の職員の姿に励まされ、確信を深める場になったようです。次回も期待されます。　（2010 年 6 月 20 日 福島県民医連事務局　鈴木さんより）

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで
TEL　03-5842-6451　／　FAX　03-5842-6460　／　E-mail　min-kaigo@min-iren.gr.jp